

第1回定例町議会

平成30年3月12日「第1回奥尻町議会定例会」が開会され、1名の議員から一般質問がありましたので、その質疑応答の概要について紹介します。

一般質問

漁業に係る磯根資源の

実態と生息環境の調査



工藤 勇議員

生息環境
の調査を

質問

奥尻町の基幹産業である漁業は、年々減少傾向にあります。

昨年の漁獲高約6億4千

万円の内、約50%の漁獲高を磯根資源に頼る現状となっております。

そんな中、最近漁業者の声として、町内の河川が流れ込む海底流域に土砂が堆積し、磯根資源の生息域が減少し、アワビ・ウニ・ナマコを始めとする磯根資源が減少しているのではと指摘されていることから、「町内一円の河川周辺海域の土砂堆積の状況調査の必要性と実施の考え」と、海域にもよるが「土砂堆積の要因を道道開設との因果関係」を危惧する声があることについて、可能な限り調査が必要と考えるが、町長の認識とその必要性について答弁を願います。

状況を監視し
対策を講じる

新村 卓実 町長

答弁

奥尻は水源の豊富な島で、大きな河川から小沢まで、降雨時には水量が増大し、河川流域に流れ込んでいくことは承知しております。

町内全域での土砂堆積状況調査については、今のところ実施する考えに至っておりませんが、降雨時の河川流域の汚濁状況を確認し、上流での崩落などを予測しながら、関係機関と情報を共有し、管理していきます。

道道工事との因果関係については、影響は見られないとのことでありますが、海藻が減少している箇所もあることから、土砂の流出

状況を監視し、発生の可能性がある場合は、対策を講

じながら進めていくとのことであります。

高齢者対策と

介護保険事業について

特養施設の増床は

工藤 勇 議員

質問

奥尻町における介護認定者及び特養待機者の実態はというと、入所待機者が35名いる実態となっておりますが、すべて75歳以上の高齢者であります。

中でも注視しなければならぬのは、要介護3以上が27名いるという現状であり、待機者家族の肉体的疲労や心労は、聞きしに勝る

ものがあります。

「いつまで待機しなければならぬのか」と大変な不安にかられている現状は見過ごすわけにはいきませ

現在の特養30床体制の現状では、デイサービスの実態、短期入所サービスの実態として今後社会問題となるであろう2025年問題を抱えている現状から、現有特養施設の増床が必要とな

中でもないか。ある自宅介護を余儀なくされている方は、「在宅介護の限界を感じている」、「何とか特養の増床は出来

ないものか」と切実な思いを話しております。

そのような現状から、高齢者福祉対策及び介護保険事業の実態、現状認識と課題解決に向けての対策、特養施設の増床、デイサービスの更なる充実の考え、また、特養待機者個々の実情の把握はされているのか答弁を願います。

コーディネーター配置など支援体制に取り組む

新村 卓実 町長

答弁

現在の訪問介護やデイサービスなどの在宅サービス利用者は91人、特養の入所者は36人となっております。「おくしり荘」が30人、町外老健施設が5人、認知症施設が1人となっております。

2025年問題に対しては、医療・介護・予防・生活支援を包括的に提供されるケアシステムの構築推進、生活支援コーディネーターの配置、認知症支援推進委員の配置など支援体制に取り組んでいきます。

「おくしり荘」

の入所者は30人であり、今後の高齢者の現状を考えると施設の整備は必要と認識していま

施設の老朽化や介護スタッフの不足で人員基準が満たせず介護報酬の減額により運営が厳しい状況になることから、福祉人材育成事業を創設し努力しています。

「おくしり荘」の待機者35人は、国保病院入院16人、在宅生活者17

人、町外施設5人となっております。

町では、待機人数や待機場所、介護度など随時報告を求めています。個人情報保護により名簿等の提供には至っていない状況であります。

